

国連ウィメン日本協会 おおさかニュース



発行：国連ウィメン日本協会大阪

発行：2021.3月

北京行動綱領採択からの25年間、 忘れられてきた課題 ～若者主導のフェミニズム運動～

 山口 慧子さん

公益財団法人日本YWCA幹事、Generation Equality Youth Task Forceメンバー。
草の根のレベルから国際政治の場における若者主体の運動構築や、ジェンダー平等を目指すプログラム・キャンペーンのコーディネートを担当している。



Generation Equality Youth Task Force (平等を目指す全ての世代) は、UN Womenによって設置された市民社会出身の40名のユースで構成されたグループです。北京+25の国際政治のプロセスに多様な若者の参加と声を反映させることを目指して、2019年9月より働きを担っています。

当初は、若者が有意義な形で参加できるように、UN Womenに対して助言を行うことが役割でしたが、それでは効果的な若者の参画を体現できないということを理由に交渉を重ね、現在は平等を目指す全ての世代に関する、全てのプロセスに若者が参画するスペースを確保するに至りました。この背景にあるのは、社会運動や政策決定の場から、若者、特に若い女性や少女が排除されてきたということです。フェミニズムを掲げるスペースであっても、年功序列的なヒエラルキーが存在し、若者は単なるトークンか、技術者・裏方とさせられてしまうことが往々にしてあります。物事を決めたり進めていくプロセスやそれによりステートメントなどの成果物に、特定の人の存在や視点が排除されていたら、本当の意味ですべての人にとってのジェンダー平等が達成されたとは言えません。インターセクショナルリティを行動に移していくためには、ジェンダーに基づく支配構造だけではなく年齢を含めたさまざまな点から公的空間や、社会運動内部の権力分析を行う必要があると思います。



コロナ禍で、日本における女性と若者の自殺率が急増したと報じられています。日本YWCAでは、去年の4月頃から若い女性を対象としたオンライン上の「セーフ・スペース」を提供してきました。周りを見渡しても、少なくない数の若い女性たちが精神的・経済的・社会的に大きなダメージを受けていることを知らされ、自殺率の急増を知らせるニュースが一気に自分事に感じられました。コロナ以前の社会に性差別とエイジズムに基づく複合差別が無かったらと想像せずにはいられません。絶望しつつも、何とか順応し前に進んでいこうとする彼女たちに連帯し、諦めずに若いフェミニストによる社会変革を目指していきたいと思います。

2020年は…

1995年の北京会議から25年(北京+25)、女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議(第1325号)採択から20年、UN WOMEN設立10年、SDGs採択から5年の節目の年でした。これを記念し、男女共同参画、女性活躍に関する様々な国際的な取組が行われています。



国際女性デーを記念するオンライン・イベント

「難民キャンプから未来への希望を育む」を開催しました！

2021年3月7日(日)

国連ウィメン日本協会では、3月8日の国際女性デーを記念して、3月7日にオンラインのチャリティ・イベント「難民キャンプから未来への希望を育む」を開催しました。

日本協会の田中由美子理事から、「世界の女性と少女は今」と題して話していただいた後、UN Womenバングラデシュ事務所長の石川祥子さんにダッカからご登壇いただき、UN Womenによるロヒンギャ難民女性への支援について、映像も使いながらお話を伺いました。大阪からご参加くださった皆様もいらっしやと思います。



Photo: UN Women/Allison Joyce

ロヒンギャは、ミャンマー西部のラカイン州に暮らすイスラム系の少数民族です。ミャンマー政府からは外国からの不法移民という扱いを受け、ミャンマーにおける多数派である仏教徒からは、差別や度重なる攻撃を受けてきました。2017年8月、ミャンマー軍によるロヒンギャへの武力攻撃が激化したことを機に70万人以上の人たちが国境を越えてバングラデシュに逃げ込みました。その際に多くの人が殺されまた女性そして男性やLGBTIQの人たちがレイプ等、性的暴力や残虐な行為の被害に遭いました。難民のなかで、女性は半数以上にのぼり、女性と子どもをあわせると全体の8割を占めます。

UN Womenでは、「多目的センターの設立」「経済的自立支援」「リーダーシップ育成」等に取り組んでいます。石川さんのお話からは、健康相談や女性に対する暴力への対応を始め、職業訓練、幼児婚対応、月経衛生等に関する知識を得ることができる多目的センターが、女性にとって大切な居場所にな



Photo: UN Women/Allison Joyce

っていることが良くわかりました。支援してきた女性の中から、自分たちの権利を求め、リーダーシップを発揮する女性が育ってきていることにも大変感銘を受けました。

国連ウィメン日本協会は、このロヒンギャ難民女性支援プロジェクトを継続的に支援しています。国連ウィメン日本協会大阪へのご支援はロヒンギャ難民女性の未来を支えることになります。

皆様のご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

国連ウィメン日本協会大阪会長 三輪 敦子



神戸女学院大学の学生の方からインタビューを受けました

2020年12月23日(水)

神戸女学院大学 文学部総合文化学科 1回生の学生 2名の方から、インタビューを受けました。お二人は、大学で女性学とボランティア論を並行して勉強されており、ジェンダーについて関心を持つと同時に、この問題に対して、自分たちに何かできることはないだろうかと考えていたそうです。そうした中、国連ウィメン日本協会大阪の活動に興味を持っていただき、今回、インタビューの依頼をいただくこととなりました。

インタビューでは4つの質問がありました。①ジェンダーの不平等は何が原因で引き起こされているのか。②新型コロナウイルスの影響によって、ジェンダー格差の問題が増えてきているが、その問題に対してどのような活動が必要か。また実際行っていることについて。③各国の国連ウィメン協会が協力して取り組んでいることは何か。④団体に所属していない学生ができる具体的なことは何か。

④の質問については、当協会でも今後の課題の一つであると改めて感じました。私からは普通の会社員としての生活や体験談、国連ウィメン日本協会大阪に関わっている思いなどをお答えさせていただきました。

今回のインタビューがオンラインでの実施であったように、コロナ禍の中、協会の活動自体も、新しいやり方を考えていければと思いました。

純粋で真っ直ぐな学生の方から、熱心な質問をいただき、逆に私の方が心を動かされました。このような機会をいただいたことに深く感謝いたします。



国連ウィメン日本協会大阪 理事 伊藤 裕美



2020年度 活動報告

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していたイベントは開催できず、例年春に開催していた総会も中止となり、書面決議での総会となりました。役員会も3月に開催以降、しばらく活動自粛の状況が続いておりましたが、秋ごろから少しずつではありますが活動を再開することができました。

このような状況下でしたが、2020年度もグッズ販売や、募金活動にたくさんの方にご協力をしていただきました。ご協力いただいたみなさまに心より御礼申し上げます。



「じんけんシネマ2020」 2020年12月5日(土)、12月13日(日)

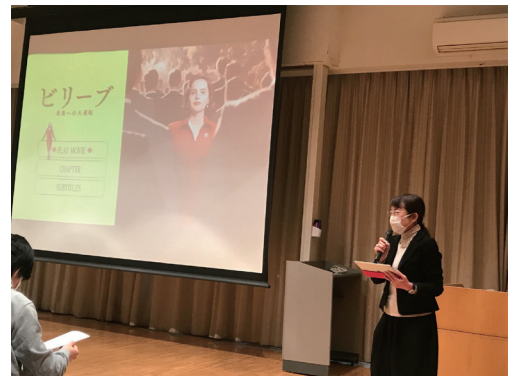
会場：クレオ大阪中央 セミナーホール

主催：クレオ大阪中央、ヒューライツ大阪

共催：国連ウィメン日本協会大阪

クレオ大阪中央にて、ヒューライツ大阪、クレオ大阪中央主催の「じんけんシネマ2020」が開催され、国連ウィメン日本協会大阪も共催団体としてブース出展をしました。

当イベントは、12月の人権週間に合わせて開催され、女性・ジェンダー平等に関する切り口から、人権について取り上げた映画を上映し、人権に関心を持つ方だけでなく、人権課題に距離を感じている方にも、映画を通じて、人権に関する日本と世界の諸課題について考えることを目的としており今年で3回目の開催となります。



2020年は、コロナ禍を通して、改めて「教育の在り方」や「居場所」を考え見つめ直す年でした。そして、光州事件から40周年、北京女性会議から25年という節目の年でもありました。また、2020年9月18日には、弁護士、判事として男女平等や女性の権利のために長年闘い、女性の社会進出を力強く後押しされた、ルース・ベイダー・ギンズバーグさんが亡くなりました。

そうした2020年の背景を踏まえ、じんけんシネマ2020では「みんなの学校」(2015年・日本)、「タクシー運転手〜約束は海を越えて」(2017年・韓国)、「ピリブ〜未来への大逆転」(2018年・米国)の3作品を上映しました。

映画はそれぞれ、「教育」「民主主義」「ジェンダー」がテーマとなっており、作品を通して、違う角度から人権について理解、関心を深めることができました。

参加された方からは、「子どもも大人も迷いながらも成長していく姿に心打たれました」(みんなの学校)、「光州事件について知らないことが沢山ありました。こんな悲しいことが世界のどこからもなくなしてほしいです」(タクシー運転手)、「どんな時も最善をつくし、自分を信じ諦めない彼女の姿勢が素晴らしく、元気をもらいました」(ピリブ)などの感想をいただきました。





「SDGsフェスタ」
「クレオ大阪中央フェスタ」

2020年10月31日(土) 会場：クレオ大阪東
2020年11月21日(土) 会場：クレオ大阪中央

クレオ大阪東で開催された「SDGsフェスタ」と、クレオ大阪中央で開催された、年に一度の館まつり「フェスタ」に、国連ウィメン日本協会大阪として、ブース出展をしました。毎年、多くの方が参加されるクレオ大阪のフェスタですが、今回は、感染防止対策をとられてのイベントとなっており、安心して参加することができました。当日は、幅広い世代の方々にブースに立ち寄っていただき、活動紹介やグッズ販売、



SDGs フェスタ



クレオ大阪中央フェスタ

募金活動をおこなうことができました。コロナ禍が続き、市民の方と直接お話できる機会が減っておりますが、今後も市民の方が気軽に参加できるイベントに積極的に参加をして、活動のPRをしていきたいと思いました。



2020年度、募金及び会費収入は、164,550円でした。
温かいご支援とご協力をありがとうございました。

2020年度、「会費」及び「寄付金」納入者一覧 (2020年1月1日～12月31日)
*お名前公表を了承いただいた方のみ、掲載させていただいております。(五十音順に掲載)

- | | | | |
|-----------------|----------|----------|----------|
| 伊藤 裕美 様 | 小原 純子 様 | 田村 まき 様 | 松村 英子 様 |
| 上杉 孝實 様 | 加藤 佳津子 様 | 中村 友美 様 | 山川 文子 様 |
| 上田 義朗 様 | 木下 孝祐 様 | 野々村 節子 様 | 山崎 美加 様 |
| 大阪市女性国際交流グループ 様 | 京極 務 様 | 榛木 恵子 様 | 山本 いづみ 様 |
| 大阪市地域女性団体協議会 様 | 小山 皖子 様 | 堀口 良子 様 | 他 |

世界の女性とつながろう～ 国連ウィメン日本協会大阪 入会案内



国連ウィメン日本協会大阪は、女性のための国連機関であるUN WOMENを大阪から支援する団体です。皆さまからの募金、及び活動の純益は、UN WOMENを通じ、世界の女性と少女のために使われます。世界の女性と少女の笑顔と未来を大阪から支えるために、是非お力をお貸しください！

会員募集

年会費 (1月1日～12月31日)

個人会費：2,000円 (1口)
法人会費：5,000円 (1口)

ご寄付・会費お振込み先

郵便振替口座

口座番号：00900-9-207691
口座名義：国連ウィメン日本協会大阪



国連ウィメン日本協会大阪 事務局

〒543-0002
大阪市天王寺区上汐5-6-25
大阪市男女いきいき財団内
TEL：06-7656-9040
FAX：06-7656-9045
HP：http://danjo.osaka.jp/unwomensaka/

